

橋渡し研究プログラム（大学発医療系スタートアップ支援プログラム）

医療系スタートアップ支援拠点

採択課題名：サイエンスでがん医療の未来を創造する大学発医療系スタートアップ支援拠点

採択拠点

代表機関名：国立研究開発法人国立がん研究センター

補助事業代表者名：橋渡し研究推進センター長/ 先端医療開発センター長・土原一哉

主な連携・協力機関：三井不動産、中小企業基盤整備機構 関東本部、帝人、ジャパンティッシュ・エンジニアリング、
かながわ再生・細胞医療産業化ネットワーク（RINK）、
東京大学エッジキャピタルパートナーズ（UTEC）、Beyond Next Ventures、
JICベンチャー・グロース・インベストメンツ、AN Venture Partners、
ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン（LINK-J）、日本貿易振興機構



全体概要

橋渡し研究推進センター（CPOT）を中心に、経営面を支える国内トップクラスのVC、インキュベーションラボなどを運営する事業会社、広報・イベントを支援する団体、製造・品質管理などを受託するCRO/CDMOなどから成る連携プラットフォーム、海外展開を支援する機構、海外での会社設立・ビジネス展開を支援する海外拠点などが連携するスタートアップ支援拠点を構築する。

この拠点の中で、CXO人材を育成する起業家レジデント制度（Entrepreneur In Residence）、アンメットメディカルニーズに基づくシーズ育成（カンパニークリエーション）、グローバルでの資金調達・ビジネス展開を行うための支援機能の構築を行う。

支援シーズの選定・ステージゲート評価では、製薬企業経験者やVC等によるバックキャスト型の評価を取り入れるとともに、トップレベルの臨床研究者・基礎研究者によるアンメットメディカルニーズを解決するためのサイエンスの視点からの評価も重要視する。

支援シーズ・伴走するPMを支援するために各ステークホルダーが意見交換を行うアドバイザリーボードを組織し、質の高い伴走支援を実現する。

これらの取組により、医療系スタートアップエコシステムを強化し、基礎研究→スタートアップ→実用化→再投資の好循環を生み出し、我が国の創薬力を強化する。
また、代表機関の特色（がん領域のハイボリュームセンター）を生かし、がん関連領域に特化する代わりに全国のスタートアップを広く支援可能な体制を構築する。

本事業で構築するSU支援拠点のイメージ

○アンメットメディカルニーズに基づくスタートアップ創出
日本型カンパニークリエーションモデル構築（S0枠）

○グローバル市場での起業・資金調達・上市を
可能とする支援体制構築（S0～S2枠）

